東京 Oasis

木造密集地は、近代に入ってからその衛生状態や災害時の危険性等が、都市開発を進める上で問題視されてきた。しかしそれらをはね除け、今に至るまで残り続けてきたのは、その密集により成立してきた住人同士の絆の強さにあるのではないかと思う。それでも現実的な問題として、もし密集地で火災が発生すれば、周囲への被害は免れない。これは木密の宿命であり、諦めざるを得ないのが実情だ。

その諦めはどこから来てしまうのか。それはその道の狭さからくる周辺住民の発見の遅れ、消防車の侵入困難等が考えられる。またヒートアイランドの影響も相まって、住環境もさらに悪化していくことも考えられる。それらを抑制するにはどうすれば良いだろうか。

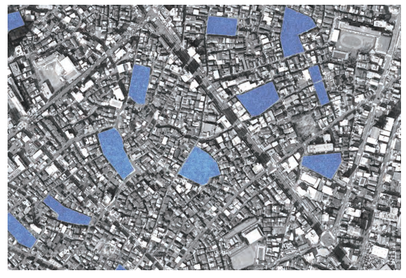
そこで、私達は木造密集地に新たな水辺を設けることを提案をする。東京、木造密集地でこれを行うことで、過去、水の周りに人々が栄えた様子にも似た風景の喚起、そして元々のコミュニティの強固さを活かしながら防災力を高め、さらにはヒートアイランド対策としても効果を発揮することが期待できる。

様々な人々が集まる東京。その中でお互いに関与し合い、独特の風景を持つ木造密集地が見える、そして魅せることでこの雰囲気の良い木造密集地は保たれる。

木造密集地のコミュニティ、景色。それらを可視化し活かすことで、私達は萌えるはずだ。

Program

敷地は都内の木密住宅地。密集していることによるコミュニティーが形成されている一方で、火災時の延焼などもこの地域の抱える問題になっている。



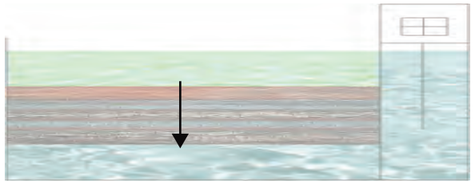
木密住宅の一部に水場を設けることによって「密集地」に解放感を与えるとともに、火災時に消火用の水としても利用される。普段は自然のあふれるビオトープとして利用される。

都内に環状に広がる住宅密集地に徐々に水場を点在させていくことによって住宅密集地全体のヒートアイランド現象の抑制が期待される。このことが間接的に防火にもつながると考えられる。

また、東京都の「海の森プロジェクト」で掲げている「風の道」と相互作用させることによってより大きな効果が得られるのではないかと考える。

縦の「風の道」と横の「水場」によって都市全体でヒートアイランドを抑えることができ、生活環境が向上する。

Utilization



火災時以外はビオトープとして利用されるとともに家の前に打ち水をしたり、育てている植物の水やり用の水として利用される。ただビオトープの水をそのまま利用することはできないので、砂層と微生物の力で水を浄化する緩速濾過を採用することにより上部のビオトープに影響を与えることなく、生活用水を生み出すことができる。

定期的に地域住民全員と地元の消防とで防火水槽を利用した消火訓練を行う。住民全員が防火水槽や消火ホースの利用方法を理解することによって防災意識が高まる。また、訓練があることによって住民が集まる機会が増え、地域のコミュニティーがより強固になる。

地域にビオトープがあることによって住環境が向上し、眺望もよくなる。さらに毎日家の前のビオトープを手入れをしたり、住民が集まってビオトープの清掃をおこなったりして管理していくことにより、住民間の共通の会話が生まれる。自然とふれあうことで地域住民の生活がより豊かなものになっていく。